

Rihoの ドイツ便り

電気代が高いのは、ほんとに 自然エネルギーのせい？

No.66

「ドイツの電気代は高い」「ドイツの再生可能エネルギー政策は失敗した」という議論が日本でも聞こえてき

ます。実際のところどうなのでしょう。

昨年は全電力の20%を自然エネルギーでまかないましたが、今年半ば25%を占めるまでとなりました。ドイツでは、2000年より固定価格で自然エネルギーの買取を実施しています。電力は株のように市場で売買されており、全国で約1000ほどある電力小売業者はそこから調達しているところがほとんどです。

現在、電力の平均価格は1kWhあたり26セント(約26円)。自然エネルギーの買取価格と市場価格との差は再生可能エネルギー法に基づき、消費者に分配されます。

この負担額は現在1kWhあたり3,6セントですが、2013年には5,3セントになる予定です。

なぜ、負担額がこんなに高くなるのか。この値上げの6割は送電網使用料や税金、他のコスト増によるものです。また「国際競争力を損なわないため」という名目で、アルミニウム工場など電力の大型消費者はこの負担から免れており、現政権になってから免除企業はどんどん増えています。加えて企業の自家発電にも免除されるので、それを含めると電力消費の半分以上この負担額を免れているといえます。その分、一般世帯など小口消費者にそのしわ寄せが集まっています。

2012年には140億ユーロ(1兆4000億円)が再生可能エネルギーの買取の助成に使われ、半分はソーラーエネルギーに投資されます。「ソーラーは自然エネルギーの5%しか発電していないのに」と批判されていますが、ソーラー発電により昼間のピーク時の電気料金が下がっているのです。例えば午前11時から12時の1時間、2011年の電力市場の平均価格は、2007年と比較すると4割下がっています。太陽光発電量は2007年の3100GW hから、2011年には18500GW hと5倍伸びました。つまり大口消費者は負担額を払わなくていい上、これまでより安く市場で電気を調達できるという二重の恩恵を受けています。

ドイツ政府は2022年に脱原発を決めましたが、洋上風力発電やガス発電など集中大型を進めようとしています。北ドイツの風量で生まれた電気を南ドイツの産業の盛んな地域に送る必要がありますが、3000キロ以上の送電網の整備は進んでいません。南ドイツでは自分たちで電力をまかなえるよう、条件が最適でない地でも風力施設を建設をしやすいよう法的整備を求めています。現在は経済省と環境省が担当しているエネルギー政策について、エネルギーシフト省をつくるべし、という声も上がっています。

インターネットで、ドイツでその日の予測と実際の発電量をリアルタイムで確認できるので、興味のある方はどうぞ。英語版もあります。<http://www.transparency.eex.com/de/>

田口理穂 ごみかんドイツ特派員

ドイツで子育て♪



5歳になった明は、音楽教室に通い始めました。週1回2年間のコース。ピアノに合わせて踊ったり、トライアングルやカスタネットを演奏し、いずれはバイオリンやフルート、トランペットも試すとか。音楽を聴いて絵を描いたり、体を動かします。教本には動物や自然の絵が書いてあり、とても音楽用とは思えない。ドイツでは楽器は6、7歳ごろから始めるのが適当といわれており、それ以前は音楽を楽しむことが重視されます。小さいころから強制して音楽嫌いになっては元も子もない。音に合わせて伸び伸び駆け回る子どもたちを見て、そのとおりだと思いました。